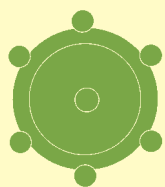


第32回特別展



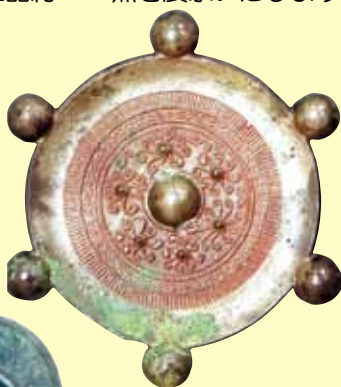
掘り起こされた音の形



～まつりと音具の世界～

特別展では、中部～関東地方を中心に各地の遺跡から発見された、縄文時代の中ごろ（約5,000年前）から江戸時代にかけての音に関する出土品約300点を展示いたします。

平成26年
10月8日(水)～
11月24日(月)



山梨県市川三郷町大塚古墳
六鈴鏡（市川三郷町蔵）
（山梨県指定文化財）



静岡県浜松市三方原学園内4号墳
七鈴鏡（浜松市博物館蔵）



土笛
（國學院大學博物館蔵）

長野県塩尻市柴宮遺跡
銅鐸（長野県宝）
（塩尻市立平出博物館）



埼玉県さいたま市東北原遺跡
亀形土製品（埼玉県指定文化財）
（さいたま市教育委員会蔵）



千葉県佐倉市江原台遺跡
亀形土製品
（明治大学博物館蔵）

山梨県立考古博物館では、第32回特別展として「掘り起こされた音の形～まつりと音具の世界～」を開催いたします。

今回の展示では縄文時代から中・近世までの資料を対象に音具の歴史とその魅力、音具が作られた背景を知っていただく機会を設けました。また、本特別展に合わせて、楽器としての土器作り、竹や土製の楽器作り、古代琴の講演会などを合わせて行うことにより、いにしえの人々と音具の関わり合いについて一層の興味関心や親しみをもってもらい、身近に感じていただくことを願っています。

現代人は多くの音の中で生活していますが、いにしえ人は静寂の中に音を求め、吹く、弾く、たたく、振るなどの行為によって音を生み出し、生み出すことから精神文化と密接な繋がりを求めたことが窺えます。精神文化の一つである「まつり」といった行為に始まる音具の背景には、さまざまな願いや祈りが込められていました。また、生活を共にする動物が身につけた道具にもそうした道具を見ることができます。展示では遺跡から発掘された遺物の中で音を発することを目的に製作された製品と複製品を展示することにより、往時の姿を想像できるようにしています。

是非、この機会にご来館いただき、古代人たちの奏でた音の世界を、出土品から読み取っていただければ幸いです。

平成26年9月

山梨県立考古博物館 館長 萩原 三雄

第32回特別展

掘り起こされた音の形

～まつりと音具の世界～

音が出る道具は、5,500年ほど前の縄文時代前期に土製の鈴が新潟県の大武遺跡で発見されています。中部高地で中期から多く発見されている土鈴は、耳を澄まさないとなかなか聞こえないほどの小さな音を発します。現在、我々が耳にしている音楽という概念とは程遠い音の世界を有していたことがわかります。ただ発掘品は土器や石といった無機質のものが大半であり、木や葉を利用した有機質の道具もあったかもしれないのも事実です。実際、弥生時代以降、木製の楽器が発見されており、その用途は埴輪などからイメージできますが、その音は現代の楽器からは程遠いほど繊細な音色です。現代人の感覚とは全く異なる用途で用いられてきた可能性が考えられます。その一つは、古墳から発見される埴輪の配置から葬送儀礼に音具が用いられてきたことがあります。

今回は精神文化と密接に関係したと考えられる「まつり」や「葬儀」といった行為に用いられたであろう音具の一端を紹介いたします。ご覧頂く多くの資料からみなさんが思い描いた「音」の世界を身近に感じていただければと思います。

I いにしへの音具～まつりの祭器～

弥生から古墳時代の初めのころ「まつり」の道具として銅鐸が用いられました。時代の変遷に伴って小型化し、最終的には埋設されるなどの経過をたどりました。

弥生人たちが聞いた音色はどのようなものだったのでしょうか？

- 長野県塩尻市芝宮遺跡（銅鐸・長野県宝）
- 千葉県市原市川焼台遺跡（小銅鐸・千葉県指定文化財）
- 静岡県浜松市前原Ⅷ遺跡（銅鐸・静岡県指定文化財）
- 静岡県袋井市愛野向山Ⅱ遺跡（小銅鐸・舌）
- 東京都八王子市中郷遺跡（小銅鐸） など



写真左：静岡県浜松市前原Ⅷ遺跡出土銅鐸
写真右：静岡県浜松市伊場遺跡出土小銅鐸
(浜松市立博物館蔵)

II 縄文の音～自然と共に～

鈴や笛、有孔鏝付土器、鈴形土偶などの逸品を紹介します。石で造られた笛はとても高い音を発します。太鼓説も唱えられている有孔鏝付土器は皮を張るととても良い音をします。縄文人はどのような目的で音具を使ったのでしょうか？

- 埼玉県さいたま市東北原遺跡（亀形土製品・埼玉県指定文化財）
- 東京都八王子市檜原遺跡（土偶形土鈴）
- 千葉県市川市曾谷貝塚（石笛）
- 山梨県韮崎市坂井南遺跡（笛形土偶）
- 山梨県北杜市酒呑場遺跡（土鈴・重要文化財）
- 長野県箕輪町中山遺跡（鳴る子入り土偶） など



写真左：埼玉県さいたま市馬場小室山遺跡出土土笛
(さいたま市教育委員会蔵)
写真右：群馬県富岡市南蛇井増光寺遺跡出土土笛
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団蔵)



滋賀県野洲市銅鐸博物館などから古墳時代の琴を復元したものがやってくるヨ！
どんな音色が奏でられたのかな？実際に触れる体験用の琴も静岡県静岡市登呂博物館からやってくるヨ！



III 弥生の音～まつりと音具～

弥生時代には水田農耕が発達し、豊穰を願ったり、戦いに備える「まつり」、もしくは葬送儀礼に音具が使用されたなどの説があります。金属を使ったものや大陸から伝わった琴などが発見されています。縄文時代の自然を意識した音具から、より楽器に近い存在のものが発生するのがこの時期です。ただし祭器とした意味合いが強いことから、模造されたものやミニチュアの道具も見つかっており、音だけでなくその形としての意味もあったようです。

- 滋賀県栗東市下鈎遺跡（琴）
- 群馬県太田市成塚石橋遺跡（鐸形土製品）
- 群馬県高崎市新保田中村前遺跡（弓弭鹿角製品）
- 東京都八王子市富中郷遺跡（小銅鐸）
- 静岡県静岡市登呂遺跡（琴）
- 静岡県浜松市角江遺跡（筑状弦楽器）
- 静岡県浜松市角江遺跡（銅鐸形土製品）
- 静岡県浜松市伊場遺跡（陶埴） など



写真上：群馬県高崎市新保田中村前遺跡出土弓弭鹿角製品（群馬県教育委員会）
 中：静岡県静岡市登呂遺跡出土琴（静岡市教育委員会）
 下：静岡県浜松市角江遺跡出土筑状弦楽器（静岡県埋蔵文化財センター）

IV 古墳の音～葬送儀礼と権力の象徴～

埴輪に見られるように琴や四ツ竹、太鼓といった楽器は葬送儀礼と密接に関係があったことが窺われます。また、威信財としての意味も大きかったものとして馬があります。これらが身につけていた馬具に鈴などの鳴物が非常に多く見られます。

- 滋賀県高島市森浜遺跡（筑状弦楽器）
- 埼玉県深谷市白山古墳群 17 号墳（弹琴埴輪・深谷市指定文化財）
- 埼玉県上里町寺浦 1 号墳（四ツ竹を持つ埴輪）
- 静岡県静岡市神明山 4 号墳（銅鈴）
- 静岡県富士市国久保遺跡（鉄鐸）
- 群馬県太田市世良田諏訪下遺跡 30 号墳（馬形埴輪・群馬県指定文化財）
- 千葉県館山市つとるば遺跡（七鈴鏡形土製模造品） など



写真右：群馬県高崎市太子塚古墳出土弹琴埴輪（高崎市教育委員会）
 写真左：静岡県磐田市甕塚古墳出土三鈴付杏葉（磐田市教育委員会）

V 奈良・平安・中近世の音～儀式と宗教～

この時代には儀式や宗教世界と一体化した音の世界が広がります。

- 福岡県宗像市沖ノ島遺跡（金銅製五弦琴雛形複製品）
- 群馬県甘楽町天引向原遺跡（鉄鐸）
- 埼玉県さいたま市氷川神社東遺跡（口琴複製品）
- 東京都八王子市多摩ニュータウンNo. 287 遺跡（陶鈴）
- 長野県塩尻市葛蒲沢遺跡（罎口）
- 群馬県高崎市方山 2 号墳（伏鈺） など



写真右：群馬県前橋市中内村前遺跡出土罎（群馬県教育委員会）
 写真左：群馬県高崎山下佐野遺跡出土鈺鼓（群馬県教育委員会）

第32回特別展「掘り起こされた音の形 ～まつりと音具の世界～」のご案内

開催期間・・・10月8日（水）～11月24日（月）月曜日は休館（10月13日11月3日[祝・月]は開館）
 臨時開館（10月14日[火]・11月4日[火]）

観覧時間・・・午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料・・・一般・大学生 600(480)円

小・中・高校生・県内在住の65歳以上の方（要証明書）は無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

※ 常設展の観覧は、別途常設展観覧券が必要です。小・中・高校生・県内外の65歳以上の方（要証明書）無料です。

※ 特別展・常設展セット（共通観覧券）は一律、一般・大学生 650円となります。

※ 11月20日（木）県民の日はどなたでも観覧料無料となります。

平成26年度博物館学芸員実習

当館では年1回、学芸員資格取得を希望する学生の方を受け入れ、学芸員実習を行っています。今年度は1名(考古専攻)が7月31日(木)からの10日間、様々な実習を通じて学芸員にとって必要なことは何かを学びました。

実習では、館内の展示見学や教育普及活動の見学および実践、資料梱包材の作成、資料梱包の実践、資料展示の実践、展示環境の調査、セミナー・イベントの補助、企画展展示計画発表・レポート作成などを行いました。

次年度の募集は、当館ホームページに掲載された要項等をご覧になり、お問い合わせください。

萩原三雄 館長が語る***

考古学研究の最前線

- ◆ 第2回 平成26年9月20日(土) 歴史考古学の世界②
- ◆ 第3回 平成27年1月10日(土) 城の考古学①
- ◆ 第4回 平成27年3月14日(土) 城の考古学②
- ◆ 事前の申し込みは不要です。
- ◆ 風土記の丘研修センター講堂 各回とも午後1時30分~午後3時

特別展関連イベントのお知らせ

特別展記念講演会<申込み不要>

11月2日(日)「考古学で聴く太古の音」13時30分より 風土記の丘研修センター
講師：(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 上席専門員 石守 晃氏

特別展記念演奏会<申込み不要>

11月9日(日)古代琴「古代への道」お話と演奏13時30分より 考古博物館エントランスホール
講師：古代琴演奏家 遠 安氏

その他の関連イベント

大人向けものづくり教室<お申込み要>

10月12日(日)「口琴(ムックリ)作り」

小・中学生・親子向けチャレンジ博物館<お申込み要>

10月5日(日)「弥生時代の笛づくりにチャレンジ」

10月19日(日)「弥生時代の琴づくりにチャレンジ」

11月2日(日)「小銅鐸づくりにチャレンジ」※10/8より受付

考古博物館の日ほか<お申込み不要>

10月26日(日)「チャレンジ演奏会・収穫祭」

11月20日(木)「県民の日イベント」

11月24日(月)「落ち葉で焼きいも」

お申し込み要 山梨県曾根丘陵公園事務所 055-266-5854

関連イベントの
お申し込み・お問い合わせ

山梨県立考古博物館

055-266-3881

原始古代の技に学ぶとチャレンジ博物館は、開催日10日前より受付
お申し込み・お問い合わせ

055-266-5286

夏休みスタンプラリー・イベントで考古博物館を満喫!

今年は県内の小中学生に「4館夏休みスタンプラリースタンプブック」が配布されました。この夏休みスタンプラリーは、今年の3月12日から県立博物館、美術館、文学館、当館の4館が小中高生無料化に伴ってはじめられたもので、7月19日(土)~8月31日(日)の期間、児童・生徒がこれを持参し、4館のスタンプを集めるとプレゼントがもらえるというものです。今年も昨年同様に猛暑となった夏でしたが、多くの児童・生徒さんが来館してくれました。

また、これにあわせてイベントを開催しました。今年は縄文時代の大珠づくり、クミベンダントに貝やヒースをアレンジしたおしゃれクミベンダントを新たに盛り込みました。また、今年から県埋蔵文化財センターの普及活動で組紐など4種類のブースを加え、子供たちの賑やかな声にあふれていました。毎年参加してくれているお友達には新たなイベントも加わって楽しく参加してもらえたと思います。これを機会に歴史や考古学に興味を持ってください!来年もいろいろなイベントを用意して待っています!



春季企画展 「縄文人の装い ～県内出土の装身具～」



三光遺跡出土
県内最大の大珠
(笛吹市教育委員会所蔵)



天神遺跡出土
日本最古級の大珠
(当館所蔵)



大月遺跡出土
大珠
(当館所蔵)



青木遺跡出土
垂飾
(北杜市教育委員会所蔵)



山崎第4遺跡出土
県内No.2の大珠
(北杜市教育委員会所蔵)

会期：4月26日(土)～6月15日(日)

宝飾産業のメッカである山梨県において、宝飾技術の起源として縄文時代の装身具を紹介しました。山梨県では国内最古級のヒスイ製大珠をはじめとして、数多くのペンダントや耳飾りといった装身具が発見されています。素材については現在でも宝石として珍重されるヒスイを筆頭に、メノウ、水晶、琥珀といったものから、滑石などに加え土製のものまで様々なものがあります。残念ながら有機質のものについては土壌の関係から認めることができませんが、現代人と同様にアクセサリーとして珍重されてきた様子が窺えます。



金生遺跡出土
土製滑車形耳飾
(北杜市教育委員会所蔵)

夏季企画展 「まじないの世界 ～儀式・呪文・霊的技術～」

甲府市塩部遺跡
人形(ひとがた)
出土状況



南アルプス市百々遺跡
葬られた馬



地鎮祭の様子



会期：7月19日(土)～8月31日(日)

ケンパの遊びや「チチンブイブイ」といったおまじないを唱えた記憶があると思います。まじないはごく身近な存在として昔から用いられていました。遺跡からは、土偶や石棒、雨乞いの儀式で用いられた馬や土馬、お祓いに使われた形代、胎盤を納めた容器などが発見されており、縄文時代以降近代にかけてまじないの世界が、生活と密着していたことが窺われます。展示では、こうした考古資料から補うことができない部分についても、民俗資料を用いて紹介いたしました。

職場体験・インターンシップを受け入れています



当館では、県埋蔵文化財センターの協力を得て、中学校・高等学校の職場体験・インターンシップの受け入れをしています。今年度は8月末までに中学校15校、高等学校1校の合わせて33名の生徒が来館し、学芸員の仕事や文化財の保護に関する仕事について学びました。



第26回 風土記の丘こどもまつりを開催しました

今年5月5・6日の2日間、曾根丘陵公園指定管理者との共催で風土記の丘・曾根丘陵公園をメイン会場に開催しました。今年1日目が天候不順でしたが2日間で延べ約24,000人近くの方に来場いただきました。毎年大人気の「勾玉作り」、「トンボ玉作り」など、様々なアトラクションで楽しみながら、古代への興味、関心を高めていただきました。



★アトラクション内容★

- 「古代の火起こし」体験→まいぎり式火起こし器で火起こしを体験！
- 「狩猟体験」→弓矢での狩猟体験！
- 「古代と遊ぼう」→追輪を的にした輪投げや、土器や土偶のバスルにチャレンジ！
- 「鹿肉燻製」→縄文風スナックを体験！
- 「黒米ご飯」→古代の食感
- 「勾玉作り」体験→親子で古墳時代のアクセサリー勾玉作り！
- 「トンボ玉作り」体験→古代の装身具作りに挑戦！
- 「縄文土器太鼓」体験→岡谷市民が中心の「JOMON DOKI DRUMBAND 森の精霊」の演奏に参加して太鼓をたたこう！
- 「史跡クイズウォークラリー」
→曾根丘陵公園内や博物館内にあるクイズを解きながら公園内を散策！
- 「クラフトを作ろう」
→木材を使ってかわいい動物の置き物づくり！

小・中学生親子ものづくり教室 チャレンジ博物館

出土資料をモデルに、古代技術を体験しました。

- * 第1回「石製耳飾りづくりにチャレンジ」(5/25)
石を削り、磨いて球状耳飾りをつくることを通して、縄文時代の装身具をつくる技術を体験しました。完成後は紐を付けてペンダントにしました。
- * 第2回「土製耳飾りづくりにチャレンジ」(6/15)
土製耳飾りをつくることを通して、縄文時代の装身具をつくる技術を体験しました。完成後は紐を付けてペンダントにしました。
- * 第3回「縄文土器づくりにチャレンジ」(7/20・27・8/17)
夏休み恒例のイベント。県内出土の実物資料をモデルに、天然の粘土を素材にして土器づくりの技術を学びました。今年是有孔・有孔罅付土器で太鼓をつくりました。
- * 第4回「縄文時代のかごづくりにチャレンジ」(8/24)
「縄文ポシェット」を参考に、小さめのかごをつくりました。かごを作りながら、縄文時代の「網代編み」の技術を体験学習しました。



完成した石製耳飾り



土製耳飾り作成中



土器の作成

大人のものづくり教室 原始古代の技に学ぶ

本格的な材料・方法を用いつつ、「普段使い」できるものづくりを体験しました。

- * 第1回「球状耳飾りペンダント作り体験」(4/20)
縄文時代の装身具を本来の耳飾りではなく、ペンダントとして作り上げました。
- * 第2回「青銅器作り体験」(5/17、24)
青銅器鑄造には銅と錫を使用し、弥生時代の合金技術を体験しました。今回は特別展関連でミニ銅鐸を作りました。
- * 第3回「縄文土器作り教室」(6/7・14・28)
県内出土の実物資料をモデルに、天然の粘土を素材にして土器づくりの技術を学びました。今回は有孔・有孔罅付土器で太鼓を作りました。
- * 第4回「青銅器作り体験」(7/13、26)
青銅器鑄造には銅と錫を使用し、古墳時代の合金技術を体験しました。磨き上げると美しい輝きを放ちます。今回は馬具の三環鈴をかかん塚古墳出土（甲府市）のものをモデルに作りました。
- * 第5回「トンボ玉作り体験」(8/10、16)
笛吹市平林2号墳出土のトンボ玉や美しい色模様が表現された8世紀代のトンボ玉（奈良東大寺正倉院宝物）等を見本とし製作体験を行いました。



完成した銅鐸



完成した三環鈴



縄文土器が完成

講演会
セミナー

史跡文化財セミナー

第61回 北口本宮富士浅間神社と
吉田口登山道周辺を歩く

日時：5月18日(日)

講師：富士吉田市教育委員会 篠原 武氏

史跡富士山の吉田口登山道の起点である北口本宮浅間神社周辺から、中の茶屋まで文化財を訪ねました。往事の富士講の一端を堪能しました。

第62回 本栖湖周辺の中道往還を歩く

日時：8月3日(日)

講師：富士河口湖町教育員会 杉本 悠樹氏

世界遺産富士山の構成資産である本栖湖周辺の史跡や文化財を訪ねました。樹海の石垣や本栖城など、中世の遺跡を中心に巡りました。



御鞍石にて



樹海の石垣にて

次回は、12月14日(日)
「信玄の棒道を歩く」です。

考古学講座 「考古学が語る 甲斐國の城下町」

山梨県内に存在する城下町の姿を知り、街の魅力を再発見する講座でした。

●第1回 6月8日(日) 「甲斐國の城下町1 武田城下町」

戦国の武田氏館を中心とする城下町の魅力に迫りました。

講師：甲府市教育委員会 信藤 祐仁 氏

●第2回 7月6日(日) 「甲斐國の城下町2 谷村城下町」

戦国・江戸の城、勝山城と谷村城を中心とする城下町の魅力に迫りました。

講師：都留市教育委員会 森屋 雅幸 氏

●第3回 7月20日(日) 「甲斐國の城下町3 新府城下町」

戦国末期の城、新府城周辺に存在したであろう幻の城下町の魅力に迫りました。

講師：韮崎市教育委員会 関間 俊明 氏

●第4回 8月17日(日) 「甲斐國の城下町4 甲府城下町」

江戸の城、甲斐府中城を中心とする城下町の魅力に迫りました。

講師：甲府市教育委員会 志村 憲一 氏



考古博物館の日イベント

●甲冑を着て戦国武将&古墳時代の
武人に変身!!

4月27日(日)

戦国時代と古墳時代の甲冑の着用体験
をして記念撮影。



おはなし会のようす

●竪穴住居でおはなし会&ドングリテ
ザートを作ろう! 食べてみよう!

5月25日(日) 県立図書館と共同事業

古代の広場の竪穴住居の中で読み聞かせの絵本を使っておはなし会をしました。その後でみんなで、「ニワトコシロップとヤマブドウのゼリー」と「どんぐりパンケーキ」を食べました。



木簡におまじないを書くようす

●富士山のお札を刷ろう!

6月22日(日) 世界文化遺産登録1周年記念

御師の外川家が富士講信者に配った5種類のお札を、実際に版木から刷る体験をしました。

ものづくりセミナー

博物館エントランスホールで実施しました。
(考古博物館協会の共催事業)

・大珠をつくろう 5月11日(日)

・縄文の笛をつくろう 6月29日(日)

・口琴・呼び子をつくろう 8月31日(日)

(甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園指定管理者
共催事業)



大珠づくりのようす

●まじないの木簡づくり

7月27日(日)

企画展に合わせて、3種類の中から一つの呪符木簡を作る体験をしました。

小・中学生の研究成果を募集しています!

第12回わたしたちの研究室

夏休みの自由研究や選択社会、総合的な学習の時間を活用した、児童・生徒の研究作品を募集しています。このコンクールは、小中学生のみなさんが考古学や歴史の楽しさを知り、興味を持つ機会とするために実施しております。優秀作品を表彰する他、応募いただいた研究成果すべてを公開・展示いたします。

内容	山梨県の考古学や歴史学などの社会科歴史的分野に関する研究成果
対象	県内の小中学生（個人やグループ、学級・学年・学校単位）
部門	個人研究部門・小学校の部 個人研究部門・中学校の部 児童・生徒がそれぞれ自由なテーマで、または教育課程において統一したテーマで取り組んだ個人研究・作品およびグループ研究・作品 団体研究部門
表彰	学級・学年・学校（部活動等を含む）で行った研究または統一したテーマのもとで研究した児童・生徒個人の成果をとりまとめたもの、あるいはその指導過程3つの部門それぞれ3つの部門それぞれ最優秀賞（教育委員長賞）1名、優秀賞（教育長賞）2名、努力賞（県考古学協会賞）若干名、奨励賞（館長賞）若干名
応募規定	① 学校で取りまとめて郵送もしくはご持参ください。 ② 研究成果（表紙）・作品には学校名・学年・氏名・ふりがな・テーマを記載してください。 ③ 申し込み時に「参加申込書」（様式1）と「展示用解説書」（様式2、団体部門Ⅱのみ）をご提出ください。 ④ 未発表のものであれば過去（概ね1年以内）に研究した成果でも応募可とします。
応募期間	平成26年9月2日（火）～11月30日（日）※最終日は17時までにお持ち込みください。 ※ 応募の詳細・応募用紙などは当館ホームページに掲載しております。 ※ 休館中も作品を受付けております。提出の際は、ご連絡下さいますようお願い申し上げます。

考古博物館・風土記の丘研修センター利用のご案内

山梨県立考古博物館 TEL 055-266-3881 FAX 055-266-3882

開館時間 午前9時から午後5時まで
ただし、入館は午後4時30分まで

休館日 毎週月曜日（祝祭日・振替休日を除く）
祝日の翌日（日曜日・祝日を除く）
特別展の準備・撤去作業並びに防災関係改修工事のため10月1日（水）～10月7日（火）、11月25日（火）～1月13日（火）まで臨時休館、9月22日（月）、10月14日（火）、11月4日（火）は臨時開館いたします。

観覧料（常設展） 個人 210円、団体（20名以上）170円

※次の場合観覧料が免除になります

- ・65才以上の方（ただし、特別展は県外の方を除く）
- ・障害者手帳をお持ちの方 ・小・中・高校生
- ・県民の日（11月20日）

県内の学校（団体）の利用について

- ・教育課程（小・中学校、高等学校、特別支援学校）で入館される場合は事前に見学の申し込みをお願いします。
- ・見学時間を充分にとり、ゆっくりと見学できるようにしてください。
- ・できるだけ下見をし、担当と打ち合わせをしてください。

学校見学の申し込みと問い合わせ先
055-266-5286 風土記の丘研修センター

交通

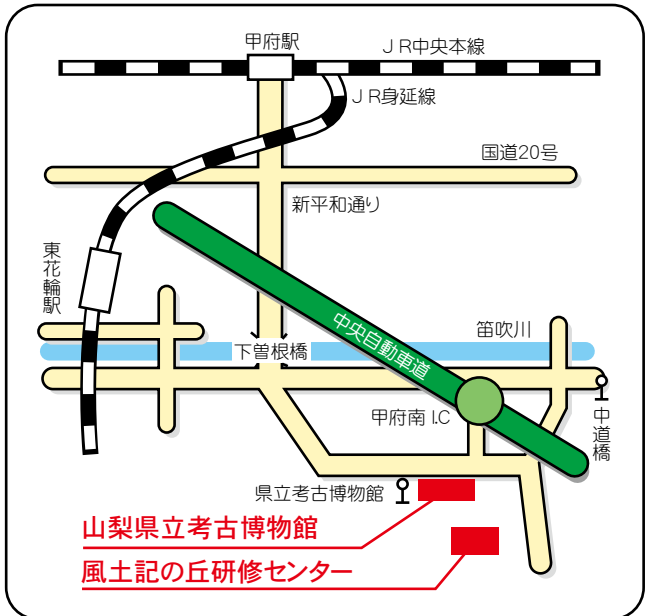
(1) **路線バスの利用**

- ・甲府駅より豊富行（中道橋経由）→「県立考古博物館」下車
- ・甲府駅より市立甲府病院行 → 市立甲府病院で下車乗り換え・富士急平和観光バス古閑町行 → 「風土記の丘農産物直売所」下車

(2) **自家用車の利用**
中央自動車道甲府南インターチェンジ前

風土記の丘研修センター TEL 055-266-5286 FAX 055-266-5287

休館日 毎週月曜日（祝祭日の場合は翌日）
12月29日から1月5日



いよいよ特別展となると秋の風を感じます。平成26年度上半期の活動をお知らせする考古博物館だより78号をお届けします。今回は展示・イベント・講演会など、盛りだくさんの内容でした。折り返し地点の下半期もみなさまに楽しんでいただけるようなイベントを多数準備しておりますので、ぜひご来館ください。（幸）



発行日 平成26年9月7日

発行 山梨県立考古博物館

住所 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923

電話 055-266-3881

印刷 株式会社 峽南堂印刷所